



まくべつ

わたしたちのまち

(昭和58年11月1日現在)

人口 21,611 (+22)

男 10,666 (+15)

女 10,945 (+7)

世帯数 6,455 (+7)

——人のうごき (10月中)——

転入 110人 転出 93人

出生 17人 死亡 12人

||||||| 生きる喜びを創造するまち・幕別町 (新総合振興計画) |||||



漬物シーズンが終ると もう冬

大道孝一さん(相川)のお宅では漬物シーズンになると、スイカ、メロン、セロリといった珍しい素材を漬物にして、家族で楽しんでいます。妻の和子さん(左から二人目)は、近所で「漬物母さん」として知られています。

58年 **12**

No.383

いのしし年

この1年

いのしし年が、もう終わろうとしています。皆さんにとって、今年はどうな年でしたか。私たちのマチにも、いろいろなことがありました。この1年を写真でつづってみました。

冬

1~3月

- 無火災を祈って出初式(1. 7~9) ●マチー番の長寿、101歳の早乙女キヨさん亡くなる(1. 10) ●全道中学スケート大会、吉田敏和君(糠内)が1000

円で優勝(1. 13) ●第1回まくべつ冬まつり、雪像とアトラクションに歓声(2. 20) ●地域づくりと心のふれあい、第6回回るいまちづくり住民大会(2. 27) ●第31回町婦人まつり、お母さんの知恵で古着を利用したファッションショー(3. 6) ●200万人達成ノ幕別温泉日帰り利用客(3. 12)

▲異常気象による作況調査
永沢副知事が来町

▲婦人まつりでの
ファッションショー



▲雪と氷の祭典
第一回冬まつり



春

4~6月

▶町職員に見送られる大石前町長



- 激戦が展開された知事・道議選(4. 10) ●管内トップを切って温水プールオープン(4. 16) ●新町長に林照男氏、町議は13人が新人(4. 24) ●ご苦労さまでした大石忠夫町長(4

.30) ●公正で清潔な町づくりを、林町政スタート(5. 2) ●白鳥へ情熱、道下正人さん(相川)が道社会貢献賞受賞(6. 6) ●初の比例代表制で行われた参議院選挙(6. 26)



▲統一地方選挙の年でした

秋

10~12月

▲主婦たちの人気を集めた野菜釣り大会
(第6回産業まつり)





塩沢 俊策さん

(駒島45・農業)

今年ほど、雲の上の太陽を恋しく思ったことはありませんでした。寒冷地作物の品種改良が進んだとはいえ、異常気象が農業生産に大きな打撃を与えました。その中で特に各ほ場での収量差が思ったより現れ、地力の低下、基盤整備の必要性をイヤというほど考えさせられた年でした。また近年、農業をとりまく状況が厳しくなっていますが、いま農業経営について自から見直す機会だと思います。



北村 節子さん

(札幌新北町178・主婦)

もう師走、月日のたつのが早いのに驚かされます。今年は明治以来の低温気候といわれ、農業基地に依存している私たちにとって、冷害の痛手はストレートに伝わり、厳しい年でした。社会面では、相変わらず深刻な問題が多発していますが、特に非行問題は、多感な年ごろの子がおりますので、ひと事ではありません。来年こそは、心に栄養を。家族そろって、深く心に残る本を読みたいですね。



小尾 公一さん

(本町124・商業)

商売とのかかわりは、生まれてこのかた、ずっとですが、全面的に商業経営者になってからは、2年ほどにしかありません。そのせいか、この1年を振り返っても、ただ無我夢中でやってきた、という思いのほうが先に立ちます。なんとなく分ってきたのは、「すべてが商いだぞ」ということです。今年は景気の悪い年でしたが、来年こそは景気の良い年になることを願っています。



高田 春男さん

(新町122・会社員)

この1年を振り返って、私たち勤労者の立場から言えば、2つの特徴が挙げられると思います。1つは、官民間わず低い賃上げで、私の家庭でも教育費の増大等、生活が楽になったという実感は、まったくありません。

2つ目は、労働環境が厳しくなってきました。こうした中で、物価上昇が落ちついてきたことが救いです。また町政で勤労者に対する施策が少ないように感じっていますが来年に期待します。

私たちのいちねん

さようなら



まくべつ

- 1皿 500人前のカレーライスノチャレンジギネスinまくべつ(7.23~24) ●幕別温泉ホテル宿泊客50万人目(8.4) ●国体ソフトボール道予選を幕別で開催(8.13~14) ●みごとな石ズラリ、第6回十勝石まつり(9.11) ●異常気象で冷害対策本部を設置(9.17) ●明野ヶ丘公園、みんなで植えた芝桜(9.18)

- やったノ 札中野球部が十勝制覇(9.26)

夏
7~9月

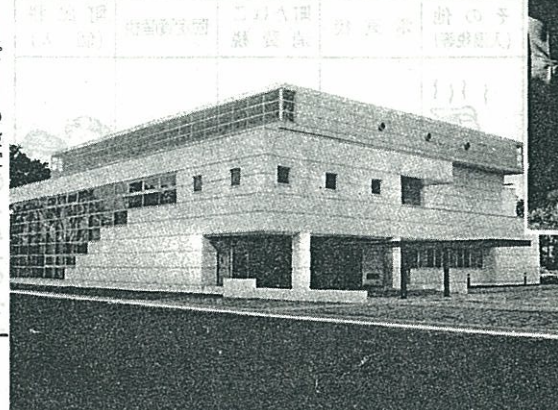


●ビッグな大会が幕別で：国体ソフトボール道予選



- 美濃政市さんが名誉町民、開町記念日に顕彰式(10.1) ●秋を満喫、第6回まくべつ産業まつり(10.2) ●町づくり見学会、施設を見て町政理解(10.14~16) ●スポーツの殿堂、農業者トレーニングセンター完成(10.15) ●町文化協会設立15周年記念、「幕別の昔を語る夕べ」など多彩な催し(10.28~11.3) ●各地から80人、全道ボランティアの集い(11.6)

▶スポーツの殿堂 農業者トレーニングセンター完成



57年度決算から

まちづくりに使ったお金 町民一人当り36万5千円

昭和五十七年度の決算と、今年度の四月から九月までの上半期の収支状況がまとまりました。

昨年度は、町民一人当り四万六千二百七十八円の町税を収めていただき、一人当り三十六万五千五百五十二円の仕事をいたしました。

『財政』といいますと、「むずかしい数字はどうも」というかたも多いと思いますがこの決算などの公表は、町民の皆さんに、町のお金がどのように使われ、また町の財政がどのように運営されているかを知っていただき、理解してもらうことが目的です。私たち二万一千六百十一人の家計簿といえるものですので、よくご覧いただきたいと思ひます。

57年度決算

一般会計

数字をたくさん並べますと、むずかしくなりますので、大ざっぱに表わします。町に入ったお金(歳入)は、前年度より二百九十七万円の減で七十九億百五十八万八千円に。仕事に使われたお金(歳出)は、前年度より一千七百七十七万円の減で七十八億一千八百七十九万八千円でした。差し引き八千二百七十八万八千円の黒字

となり、財政調整基金に四千七百七十九万円の積立てをしましたので、実質繰越額は三千五百七十八万八千円となります。

この決算額は、歳入、歳出とも初めて前年度より下回りました。

歳入

図一の歳入(財源の構成状況)を見てみますと、町民の皆さんが納めた町税は、全体の四一・四%となっています。町民一人当り四万六千二百七十八円の負担で、三十六万五千五百五十二円の支出をしたことになり、町税収入の約八倍の仕事をしたわけです。

●表一 各会計別決算

(単位千円)

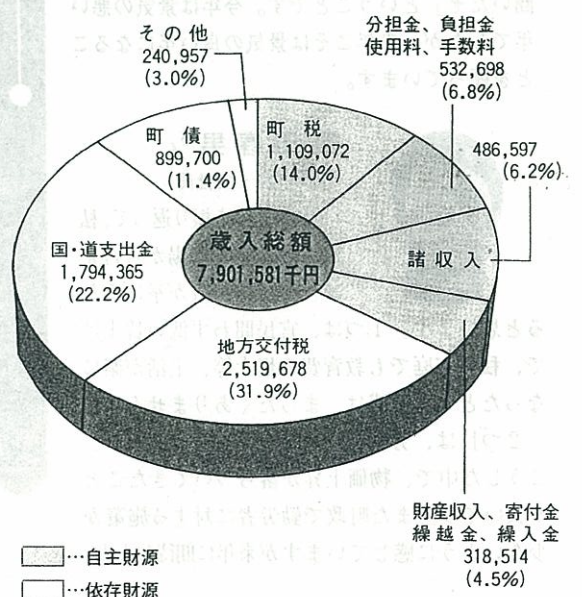
会計名	歳入	歳出	差引残
一般会計	7,901,581	7,818,795	82,786
特別会計	1,905,758	1,842,924	62,784
1)国民健康保険会計	929,578	885,367	44,211
2)簡易水道会計	17,971	17,509	462
3)公共下水道会計	689,611	689,217	394
4)駒島宮農用水会計	2,818	2,773	45
5)土地区画整理会計	206,886	203,117	3,769
6)飲料水供給施設会計	13,001	12,866	135
7)老人保健会計	45,893	32,125	13,768

図一の歳入(財源の構成状況)を見てみますと、町民の皆さんが納めた町税は、全体の四一・四%となっています。町民一人当り四万六千二百七十八円の負担で、三十六万五千五百五十二円の支出をしたことになり、町税収入の約八倍の仕事をしたわけです。

なぜ八倍もの仕事が出るのか。そのカラクリは、地方交付税や補助金などの国や道からのお金、町債という借入金です。これらは「依存財源」といい、町税のように町が自分で集めて自主的に使えるお金を「自主財源」といいます。

幕別町の自主財源は、三一・五%で残りの六八・五%は国や道借入金などに依存しています。俗に「三割自治」といわれる地方財政の厳しさがここにみられますね。

●図一 歳入(財源の構成状況)



町民一人当り納めたお金

合計	その他(入湯税等)	電気税	町たばこ消費税	固定資産税	町民税(個人)
46,278円	972円	2,358円	3,709円	16,849円	22,390円

町民1人当り 使ったお金

農林業費		79,445円
土木費		64,197円
教育費		59,472円
民生費		41,591円
総務費		41,563円
公債費		36,504円
衛生費		14,913円
消防費		13,725円
商工費		8,581円
その他	議会費 3,888円 労働費 1,535円 災害復旧費 138円	
合計		365,552円

●表-3 借入金の現在高
(単位千円)

借入金名	現在高	構成比率
都市計画事業	186,504	2.2%
農業基盤整備事業	724,966	8.6%
道路橋梁整備事業	1,484,769	17.2%
公営住宅整備事業	581,577	6.7%
教育施設整備事業	1,540,534	17.8%
厚生福祉施設整備事業	326,089	3.8%
災害復旧事業	39,123	0.5%
公有林造成事業	152,748	1.8%
水道事業	1,116,068	12.9%
下水道事業	1,244,045	14.4%
観光施設事業	110,416	1.3%
土地区画整理事業	63,800	0.7%
その他	1,052,188	12.1%
合計	8,640,827	100%

●表-2 超過負担の主なもの
(単位千円)

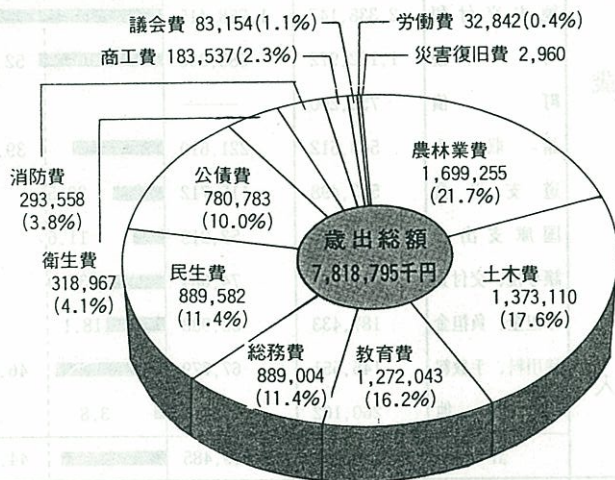
事業名	負担率	補助対象額	補助基本額	補助金	超過負担額
農業委員会費	18	16,708	10,501	10,501	6,207
途別小学校建設費	14	190,740	182,191	64,663	3,124
白人小学校建設費	14	154,723	59,524	19,841	31,733
わかば幼稚園建設費	14	8,499	2,407	1,203	3,046
保育所運営費	14	92,406	53,519	42,815	31,109
国民年金事務費	18	16,926	12,793	12,793	4,133

「こんなに借金があつて町の台所は大丈夫かしら?」と心配されるかたもあるかもしれませんね。しかし行政の場合は必ずしもそうではありません。道路や学校、上下水道など半永久的な施設は、将来その恩恵に浴する町民のかたにも借金返済という形で負担してもらうべきものであり、早く学校を新築したり、道路の舗装を進めたりするには積極的に借金を活用することも必要なのです。

歳出

図-2の歳出をご覧ください。目的別にお金の使い道を見ると、農林業費が二一・七%でトップ、続いて土木費が一七・六%、以下教育費一六・二%、民生費、総務費がそれぞれ一一・四%となっています。借金の返済に充てるお金を「公債費」といいますが、歳出の一〇%、七億八千万円を返済に充てたように毎年計画的に返済をしています。性質別に分けると、消費的経費(人件費、物件費、補助費など)が五四%を占め、投資的経費(普通建設事業)が四六%となっています。行政水準の向上、経済的な影響からも、支出総額に占める投資

●図-2 歳出(目的別決算内訳)



住みよい町づくりに

公営住宅建設事業	124,324千円
曙(あけぼの)通(緑町)街路事業	56,977千円
明野ヶ丘公園整備事業	56,201千円
幕別札内線道路改良事業	49,800千円
日新線特改4種工事	49,560千円

豊かな町づくりに

新農業構造改善事業(トレセン)	286,231千円
土地改良事業	254,498千円
肉用牛集約生産基地育成事業	204,281千円
農村総合整備モデル事業	92,981千円
農道整備事業	77,928千円

明日への町づくりに

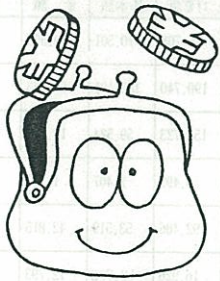
途別小学校建設事業	234,023千円
白人小学校建設事業	176,987千円
札内北小学校建設事業	97,123千円
教員住宅(共済)購入事業	32,944千円
幕別中学校大規模改修事業	17,700千円

あたたかい町づくりに

糠内コミュニティセンター建設事業	106,531千円
日新近隣センター建設事業	17,697千円
泉町近隣センター建設事業	16,331千円
老人福祉バス購入事業	13,000千円
老人福祉センター環境整備事業	5,705千円

的経費の割合が高いほど望ましいのです。五十七年度の普通建設事業(町民の生活向上を図る各種の建設事業)に使われたお金は、三十五億八千八百六十八万九千円ですが、そのうち主な事業は次のとおりです。

●昭和58年度 4月～9月



町の台所のようす

上半期の執行状況

私たちの住む郷土をより住みよいものにするため、ことしもいろいろな事業を進めています。その台所の内容はどうなっているのでしょうか。

五十八年度上半期は、景気の低迷が続くなかで、適切なサービスを確保するため、予算の完全執行に努めています。九月末の執行状況は、一般会計が歳入で四四・〇%（前年度同期三八・〇%）、歳出で四〇・二%（同三五・一%）といずれも昨年を上回る高い執行率となつています。

【表一参照】

また、特別会計、公営企業会計は、ほぼ昨年度並みの執行率で経過しています。

なお、来年三月三十一日までに百%執行の見込みです。

【表一二参照】

●表一 一般会計執行状況

(単位千円)

区分	科目	予算現額	収入済額	執行率 %
歳入	地方交付税	2,338,147	1,758,415	75.2
	町税	1,122,972	585,366	52.1
	町債	755,200	—	—
	諸収入	568,512	221,610	39.0
	道支出金	563,498	115,712	20.5
	国庫支出金	449,365	52,219	11.6
	譲与税、交付金	241,190	74,684	31.0
	分担金、負担金	187,433	33,933	18.1
	使用料、手数料	145,551	67,779	46.5
	その他	260,102	9,767	3.8
	計	6,631,970	2,919,485	44.0
歳出	土木費	1,230,336	326,608	26.5
	農林業費	1,225,426	327,409	26.7
	公債費	895,941	441,935	49.3
	民生費	861,925	438,628	50.9
	議会、総務費	803,457	359,058	44.7
	教育費	773,262	343,999	44.5
	衛生費	358,972	175,274	48.8
	消防費	252,614	134,612	53.3
	商工費	186,107	114,530	61.5
	労働費	17,430	13,086	75.1
	その他	26,500	—	—
	計	6,631,970	2,675,139	40.3

●基金の現在高

(単位千円)

基金名	現在高
財政調整基金	353,000
教育施設建設基金	255,000
土地開発基金	86,000
減債基金	64,000
奨学資金基金	10,244
診療報酬支払基金	88,740
その他	9,992
合計	866,976

決算からみた
財政の健康診断

財政の健康状態を計るモノ差しに、「財政力指数」と「経営収支比率」。「公債費比率」の三つがあります。このモノ差しで幕別町の財政を見てみましょう。

◇財政力指数

自治体の自主性の尺度で、指数が高いほど自まかないできるお金が多いことを意味します。本町の場合は三〇・二%で管内で三番目に高い指数です。

◇公債費比率

借金の返済に充てられるお金で、比率が高くなると財政運用が苦しくなり、借金で首が回らない状態になります。本町は一四・七%で管内では低い方から五番目です。

◇経常収支比率

自由に使える財源がどのくらいあるかで、財政の硬直化がどうかを判断します。比率が低いほど自由になるお金が多く、硬直化していないことを表わします。本町は七六・四%で管内十三番目に位置しています。

●表二 特別会計・公営企業会計執行状況

(単位千円)

区 分		予算現額	歳 入		歳 出	
			収入済額	執行率 %	支出済額	執行率 %
特 別 会 計	国民健康保険	863,834	380,082	44.0	315,666	36.5
	簡 易 水 道	16,228	9,314	57.4	5,764	35.5
	下 水 道	935,684	217,528	23.2	270,750	28.9
	土 地 区 画	241,105	150,718	62.5	185,704	77.0
	駒 島 営 農	2,856	1,276	44.7	820	28.7
計	飲 供 施 設	6,619	3,552	53.7	1,392	21.0
	老 人 保 健	631,845	265,134	41.9	244,235	38.7
	計	2,698,171	1,027,604	38.1	1,024,331	38.0
公営企業会計	水 道	204,047	71,420	35.0	76,497	37.5
	国 民 宿 舎	304,128	168,339	55.4	135,564	44.6
	計	508,175	239,759	47.2	212,061	41.7

羽ばたけ、奨励賞をステップに

42個人、20団体を表彰



式表彰スポーツ文化別幕渡

町の文化・スポーツの発展に努力していききたい」とお礼のことばを述べられました。

各奨励賞を受賞されたかたは、次のみなさんです。

■文化奨励賞

高垣茂 駒島 景山美智恵(錦町) 黒島敦子(相川) 鳥海正行(札内泉町) 渡辺文章(札内桂町) 小笠原史幸(札内泉町) 高岸秀行(札内あかしや町) 梶田善行(緑町) 東原学(明野) 加瀬谷博文(南町) 青田純子(緑町) 安東ウメ子(千住)

■スポーツ奨励賞

小師国光(錦町) 藤家博章(旭町) 石川かおり(泉町) 石野英樹(札内中央町) 沢田敦(札内桜町) 馬場美和子(札内あかしや町) 高橋佳江(札内中央町) 岡野新一(札内共栄町) 宗広寿(札内青葉町) 田村陽子(札内春日町) 植松繁(札内若草町) 松田望(札内若草町) 渡辺はるみ(南町) 大島由香(明倫) 古川さとみ(相川) 駒井二郎(札内

表彰式では、林町長が「より一層のご活躍を」とお祝いのことばを述べられ、受賞者を代表して藤家博章さんが「荣誉ある賞をいただきお礼申し上げます。これからも

■町文化協会15周年記念行事

幕別の昔を語る夕べ



開拓当時の思い出を語るお年寄り

青葉町) 駒井美江(札内青葉町) 米山ともみ(新町) 竹村美佐代(緑町) 中山仁(猿別) 棚谷拓人(札内あかしや町) 長嶋知子(札内桂町) 高橋成央(札内泉町) 中村純子(札内若草町) 高橋佳奈美(札内若草町) 中山乃(猿別) 亀井誠志郎(明倫) 吉田敏和(明倫) 酒井修二(札内青葉町) 山口和則(依田) 幕別町陸上競技協会 札内マ・バレエボールクラブ 幕別高校アーチェリー部(二チーム) 札内中学校野球部 幕別卓球スポーツ少年団(五チーム) 幕別中学校卓球部 榎内中学校スケート部 幕別スイミングスクール(二チーム) 幕別小学校陸上リレーチーム 札内中学校陸上部(五チーム)

幕別の開拓時代をお年寄りの体験談やスライド上映、音楽などで再現した、「幕別の昔を語る夕べ」が十一月四日町民会館で開かれ、年配者は昔を懐かしみ、若者は半世紀以上も前のふるさとに思いをはせていました。

同夕べは幕別文化協会の十五周年記念事業の一環で「町のたどってきた歴史を再確認し、その中から町内における文化の源を探ろう」と企画されました。当日は、石田会長が「文化というものは歴史の積み上げの中から生まれてくるもの」とあいさつして開幕。安東ウメ子さん(千住)が、アイヌの楽器ムツクリの演奏、踊りを披露したあと、ステージの一角に設けられた畳敷きの部屋に、郷土史研究家の小助

川勝義さん(榎

内中)が登場し、次々とふすまを開けて入ってくるお年寄りたちから、さまざま

な思い出話を聞き出していました。

最初に入ってきたのは沢田政太郎さん(明野)「鉄道が開通したのは明治三十八年で、わしは母

親におぶさって背中旗を振りましたよ。」福家左多雄さん(新和)「大正の末ごろか、雪で牛乳を出すのに大変だったから百分の牛乳を沸かして風呂にしたんです。」山端フジエさん(相川)「大正十一年の大洪水の時、私は七歳でしたが津波のよう

な水が押し寄せてきて身震いました。」牛尾コトミさん(本町)「昭和五年六月二十二日の午後一時二十五分止若市街の一条通付近から出火した火災は、瞬のうちに燃え、二十六棟三十四戸が焼けました。」



ムツクリを演奏する安東ウメ子さん

●アンケート調査

施設を見て勉強になった

町づくり見学会

五十八年度の「町づくり見学会」が、十月十四日から十六日の三日間実施されましたが、よりよい見学会にするため、参加者を対象に、アンケート調査を行いました。回答を寄せてくださったのは、男十七人、女三十六人、の計五十三人、回答率は四八・一八％でした。以下集計の結果を、お知らせします。

■年齢と職業 調査に回答してくださったかたの年齢は、六十歳以上、五十代、四十代、三十代の順。職業では、無職、主婦、勤労者の順となっています。

質問と回答

問い ふだん幕別の住民であると感じるのは、どんなときですか。

① 戸籍や住民票を届け出たり、もらったりするとき

6人(11・3％)

② 税金を納めるとき

10人(18・9％)

③ 町民会館、近隣センターなど、町の施設を利用するとき

7人(13・2％)

④ 町長、町議選挙のとき

7人(13・2％)

⑤ 町づくり見学会などに参加するとき

1人(1・9％)

⑥ 広報を読んでいるとき

17人(32・0％)

⑦ その他

2人(3・8％)

⑧ 全然感じることはない

1人(1・9％)

⑨ わからない

2人(3・8％)

住民であると感じる中で、最も多いのは、⑥ 広報紙を読んでいるときです。これは、行政と住民を定期的に結んでいるものは、広報紙であるからだと思えます。そのほかでは、町民(国民)としての、権利や

義務を行使するときが多い。

問い 参加された動機は、なんですか。

① 町内の施設を見たかったから

16人(30・2％)

② 施設を見学し、町政に対する理解を深める

36人(67・9％)

③ 町づくりに対する、意見、要望を反映させる

1人(1・9％)

④ 余暇時間があつたから

0人(0・0％)

② 施設を見学し、町政に対する理解を深めるため、最も多いが、これは自分が生活している地域から一歩外へ出ると分らないこと。各施設について、広報紙では知っているが、見たことがないとの現れだと考えられ、見学会の趣旨と一致します。一方30％の人が、気楽な気分に参加をし、楽しむ見学会にしている人もいます。

問い 「よかった」と感じた理由を具体的に記述してください。

問い 町づくり見学会に。

① 毎年参加 5人(9・4％)

② 初めての参加 39人(73・6％)

③ 二回目の参加 9人(17・0％)

初めての参加者が、73・6％を占めています。

問い 見学会に参加した感じは、どうでしたか。

① よかった 53人(100％)

② 悪かった 0人(0％)

③ わからない 0人(0％)

問い 回答者全員がよかったと思つています。

⑥ 町内の施設とはいえ個人ではなかなか行けず、身近な説明があり各施設の機能、利用について理解でき、たいへん勉強になった。

⑦ 理事者の町政に対する意見が、伺えたのでよかった。

⑧ 水の大切さが分ったこと、ゴミ処理についてもルールを守ることなど、みんなで協力することが必要と感じた。

問い 見学会は必要だと思ひますか。

① 思う 52人(98・1％)

② 思わない 0人(0・0％)

③ わからない 1人(1・9％)

問い 見学会の実施時期などについておたずねします。

(-)希望する時期は

① 四〜六月 5人(9・4％)

② 七〜九月 12人(22・7％)

③ 十〜十一月 36人(67・9％)

(-)実施回数は

① 年一回 37人(69・8％)

② 年二回 15人(28・3％)

③ 年三回以上 1人(1・9％)



町長・助役を囲んでの座談会

多くの人が、年一回を希望している。年二回の希望も多く、これは多くの施設を見たいという現われと考えられます。

(二)見学施設数は

- ① 多い 1人(1・9%)
- ② ちょうどよい 45人(84・9%)
- ③ 少なかった 7人(13・2%)

今回(前年モ)、七カ所を見学しましたが、時間的にもちょうど良いと思われま

問い 座談会は、必要だと思

- ① 思う 48人(90・5%)
- ② 思わない 3人(5・7%)
- ③ わからない 2人(3・8%)

48人が、必要だと思つています。これは、町民、助役に自分の意見をざつぱらに聞いてもらえることや、町政の考え方が理解できることなどが、起因していると思われま

問い 座談会の方法は、今のま

- ① 思う 39人(73・6%)
- ② 思わない 8人(15・1%)
- ③ わからない 6人(11・3%)

方法については、今の自由討論方式で進めるのが良いと、39人の回答がありますが、反面「思わない」、「わからない」が、26%あり、この声も無視できません。

問い 座談会のテーマを決め

- ① 福祉問題 11人(20・7%)
- ② 教育問題 1人(1・9%)
- ③ 物価問題 3人(5・7%)
- ④ 町の行う事業計画 22人(41・5%)
- ⑤ 土地利用、再開発の問題 3人(5・7%)
- ⑥ 町の長期計画 8人(15・1%)
- ⑦ その他 1人(1・9%)
- ⑧ わからない 4人(7・5%)

特徴的には、「町の行う事業計画」、「長期計画」に、関心が

高く、福祉問題についても20%の比率を占めています。

問い 見学会で見た施設を一つだけ記入してください。

▼農業関係施設▼給食センター▼学校▼下水道処理場▼ふ化場▼特養老人ホーム▼千代田えん堤▼神社、仏閣▼町内の工場、会社▼開拓の碑▼団地、農村地域

問い 望んでいる施設を一つだけ記入してください。

▼図書館▼町立病院▼幕高の改築▼ゲートボールコート(冬期間)▼近隣センター▼札内地区にもトレンセン▼憩の家

アンケート調査の集計結果については以上ですが、このほか町政に対して貴重なご意見、ご希望を数多くいただきました。これらの意見、希望は関係課において検討、協議をして町づくりに役立たせていただきます。回答をお寄せくださったかたに、紙上から厚くお礼申し上げます。

ナイス。シュート

全町バスケット大会

全町バスケットボール大会が、十一月十二日、農業者トレーニングセンターにおいて行われました。この大会には、中学生の部と一般部の合わせて十九チーム参加し、

熱戦が繰り広げられました。

大会結果は次のとおり。

■中学の部(決勝)

・男子
幕中A 34-15 幕中B

・女子

幕中A 40-1 幕中D

■一般の部(決勝)

・男子

幕別バスケット 48-13 幕中OB 選抜

同好会

・女子

幕別 18-17 幕中 三年A

健康相談

質問

夫が倒れて二年

嫁いで、老夫婦二人の生活になりました。急に訪れた静寂のせいか、健康のことが一番心配です。夫が利用できる施設・制度等を知りたいのです

お答え

町内には、お年寄

だく施設として、老人福祉センター、特別養護老人ホームがあります。老人福祉センターは毎月、福祉バスで多くの

かたが利用されています。また、特養でも体の不自由なお年寄りが快適に過ごすお手

伝いをしています。ただし、現在、入所希望者が多く、順番待ちをしている状態です。将来の生活設計を十分に立て、早期に手続きをする必要がある

と思います。特養の短期入所、または入所についての詳しいことは、役場福祉係へ。

次に制度の主なものです。

〈福祉手当〉 精神または身体に重い障害のある人に、月額一万五千円が支給されます。(条件あり)

〈介護手当〉 六十五歳以上で六カ月以上の寝たきり老人、六十五歳未満の寝たきり重度心身障害者を介護しているかたに、月額三千円が支給されます。

〈寝たきり老人家庭見舞金〉 町内に三カ月以上お住いの寝たきりのかたに三千円支給します。(各手

続き等の詳細は役場福祉係へ) 〈寝たきり老人入浴サービス〉 町内にお住いの寝たきりのかたで、家庭入浴の困難なかたは、医師の指示のある場合に限り、巡回入浴サービス車で特養へお連れし、入浴の介助をいたします。

〈ホームヘルパー派遣〉 老衰や心身の具合が悪くて日常の生活に困っているかた、ひとり暮らしや寝たきりのかた、心身障害のあるかたの身のまわりのお世話をするために、各家庭を回っています。

このように町では、お年寄りのよりよい環境づくりに力をいれているわけですが、日ごろ病院へ行くほどではないが体調が思わしくなく、また以前に血圧治療したことがあるが、最近では診てもらっていないなど、健康について心配があるかたは、保健婦が健康相談を行っています。幕別方面は、健康センターで毎日、札内方面は、福祉センターで月、水、金曜日の午前中に受けています。



まちの ニュース

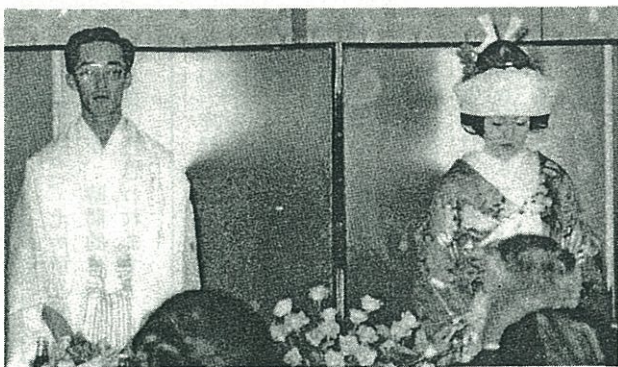
▲菊花展で外務大臣賞を受賞

調和のとれた花弁が大きく開いた、華麗で力強い大菊厚物三本立ての作品。帯広菊まつり菊花展で、相川の脇坂一也さんが、外務大臣賞を受賞しました。



▲「続・子らを見つめて」発刊

四十年間にわたる教員生活の思い出を一冊の本にまとめた「続・子らを見つめて・ほつちやれ」を藤田和子さん(桂町)が刊行しました。



▶東郷町から初めての花嫁

「友好町」である宮崎県東郷町から海野洋美さんが、長田仁秀さんと十一月十五日、札内福祉センターで結婚式を挙げました。

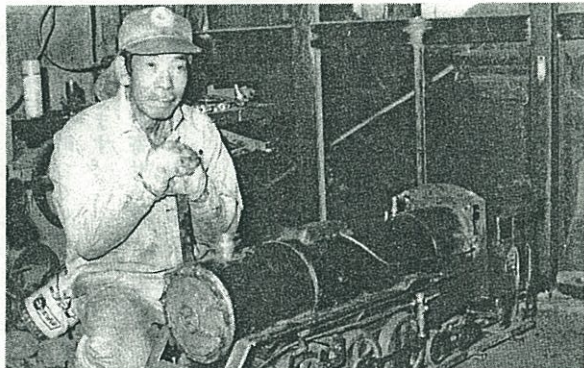


「訂正とおわび」

前月号で紹介をした「手づくりの窯小屋完成」の記事で「幕別白樺大 学陶芸部」の協力があり、仲間の皆さんが利用する窯小屋であることを追記します。

▶「ミニSL」を手作り

SLマニアではないが、根っからの機械いじりの好きな森野末吉さん(錦町)が、二年がかりで実物の十分の一というミニ蒸気機関車を一人でコツコツ製作しています。小さな部品まで全くの「手作り」で三両を手掛け、長年の「腕」を生かし来年の秋には完成予定です。



このコーナーに地域や学校、個人のニュースを登場させてみませんか。取材にうかがいますので、役場の広報広聴係まで連絡ください。

幕別風土記 五

大正六年に現在の土地に入り、四戸分の未墾地を開墾するのにはずいぶん苦勞し、完全に終るのに十年くらいかかりました。



山崎外次郎さん(85歳)
五位504

四番地へ来たのは大正六年の時ですわ。

土地を持ったのは、西五位村から来ていた人たちが共同で馬を預っていた共同牧場があつて、八百町歩くらいの土地を持っていたんです。そこを二戸分(五町歩)百三十円で、四戸分を購入し、未墾地を開墾するのにずいぶん苦勞しましたわ。

私は、明治三十一年四月四日に富山県西砺波郡西五位村大字土屋(福岡町)で生まれました。幕別へ来たのは、私が五歳の時の明治三十六年四月です。子供のころだからはっきり覚えていないんだけど、父母と私の三人とほかに三、四戸の団体で来たそうですわ。

最初は、母親の弟である橋本弥一郎を頼つて来て、道々幕別・大樹線沿いの五位北三号付近に堀つ立て小屋十二坪を建ててもらいました。そして、岩永右八さん(元道議会議員)の土地五町歩を借りて小作人になりましたね。小作を二年ほどやったあと、五位北五号付近に転居し、土地五町歩と堀つ立て小屋二十坪の住宅を購入して、初めて独立しました。そこから現在の五位五百

昔は、開墾するのも荷物を運ぶのも、全部馬でやっていました。今は開墾することもないしね。農作業はほとんど機械ですし、楽なもんですよ。

私の声を町長に送る旬間

道路整備など百六十一件

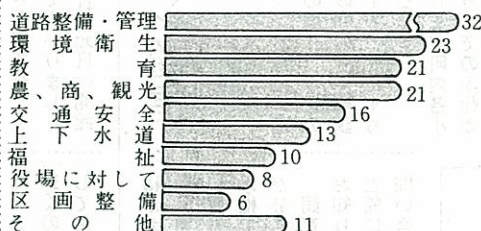
町民の皆さんが、日ごろ思っていること、町政へのアイデア、将来への希望、意見などをお聞かせ

いただく「私の声を町長に送る旬間」(十一月七日～十七日)を設定しましたが、期間中にお寄せいただいたハガキは百十九通で、要望、意見の件数は百六十一件にな

男女、年代別内訳(119通)

年代性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	不明	計
男	1	18	8	20	14	11	5	77
女	2	9	10	11	1	3	3	39
不明	—	—	—	—	1	—	2	3
計	3	27	18	31	16	14	10	119

内容別内訳(161件)



ご紹介ください・東京在住の人

—東京幕別会結成準備—

東京でふるさと幕別の思い出を語ろう——。町では、いま東京(あるいは東京近辺のかたも含む)に在住し、それぞれの立場でご活躍している本町出身者や、勤務の関係で一時的であるが幕別町に居住したことのあるかたなどを対象にして「東京幕別会」の結成準備を進めています。

町民の皆さんのご家族、親せき、知人、隣人などでお心当りのかたがおりましたら電話で次によりご紹介ください。

◎東京在住者の氏名、住所、勤務先、

電話番号(自宅、勤務先)

◎連絡先 役場企画財政課 ☎54-2111

◎12月20日ころまでにご紹介くださるようお願い致します。

りました。男女、年代別では五十代の男性が多く、三十代、六十代の男性の順になっています。

内容別では、道路整備・管理(舗装、除雪)三十二件、環境衛生(ゴミ、公園、防犯灯)二十三件、教育関係二十一件、農業・商業・観光二十一件、交通安全十六件、上下水道十三件と続き、ご意見、要望が多様多様になっています。

寄せられたハガキは、すべて町長が目を通し、担当課と協議し回答書を作成、本人へ直接回答いたします。

ご寄付ありがとうございます

■町へ……

▽町農業者トレーニングセンターへ堂前工務店(株)からカラーテレビ一台、幕別料飲店組合から時計一台、吉田造園から植木二鉢、▽山内利雄さん(千住)から交通安全に役立ててくださいと三万円

■町社会福祉協議会へ……

▽難波春男さん(駒島)から父が生前お世話になりましたと身障者福祉基金へ十万円、▽梅田敏男さん(札幌)あかしや町から母が生前お世話になりましたと十万円、▽田口長三さん(日新)から母が生前お世話になりましたと二万円、▽山本こゆきさん(五位)から夫が生前お世話になりましたと五万円、▽藤平景夫さん(本町)から父が生前お世話になりましたと五万円

▽札幌内農協(札幌中央町)から青空市益金より福祉に役立ててくださいと三万五千元、▽札幌内中央町第三公民会からおみこし担ぎの謝礼金の一部として一万五千元、▽山田利雄さん(糠内)から母が生前お世話になりましたと五万円

■老人クラブへ……

▽本田いくよさん(駒島)から一万円、▽田口長三さん(日新)から三万円、▽山田利雄さん(糠内)から三万円、▽藤平景夫さん(本町)から二万円、▽山本こゆきさん(五位)から五万円

■その他

▽匿名のかたから交通安全のために役立ててくださいと町交通安全協会へ千円

大内憲一さんより

図書購入のため百万円

大内憲一さん(本町五八)から、歯科医院開業三十五年目を記念して、図書購入に役立ててくださいと、町へ百万円の寄付がありました。



百万円を贈る大内さん(右)

新町民登場

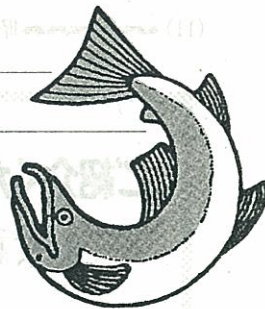


富樫眞智子さん
本町108

今年の五月に夫の転勤で、枝幸郡歌登町から来ました。歌登町には二年しかいませんでしたが、オホーツク海の近くにある、酪農を主体とした過疎化の進む小さな町で、冬はとても寒く雪の多かったのが印象に残っています。

幕別にきて、まず感じたことは、歌登町と比べると、とても大きな町だと思ったことです。役場、消防、文化、スポーツ施設、そして温泉、どれも立派な建物で、商店の数も多く、住みやすい所だと思いました。ただ、幕別に住んでも、なぜか札幌内地区が別の町のような印象を受けました。

こちらに来てそうそう、八月の道民スポーツ十勝大会陸上の部で、町の代表として参加させていただきました。これからも、幕別町の思い出をたくさん作りたいと思います。



ふるさと館 でお正月を

1984年1月1日

昨年まで「ふるさと館年越しシリーズ」を実施してまいりましたが、多くの皆さんより「元日に開館

サーモン通信

(34)

ふるさと館のジャンボ水槽に産み落とされたサケの卵は、ふ化の日に向って水槽の砂利の中で順調に成長を続けています。ふ化するのは、十二月末ごろです。

例年実施しております町内各小中学校（希望校のみ）でのふ化から放流までの飼育と観察は、今年も実施していただきますが、本年からは、試験的に一般家庭での飼育と観察を行ってみたいと思っております。

飼育と観察を行ってみたいかは、ふるさと館までお申し込みいただきます。ただし、どんなものでもかまいませんが、容

ふるさと館 移動展

ふるさと館では、移動展を行っております。

第一弾は、町民会館で行なわれた文化協会主催の写真展に「幕別の今昔」というテーマで出展いたしました。続いて第二弾は、幕別温泉ホテルの協力により、大浴場への通路で「幕別の温泉、その歴史とスプーン一杯の科学」というテーマで行っております。

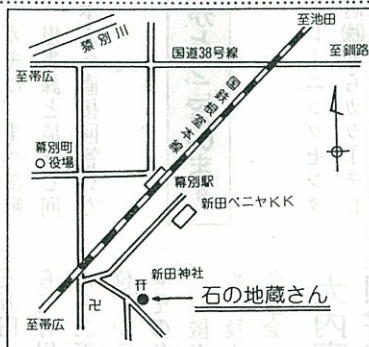
なお、町民会館で行われた写真展に展示したものの中に、御希望の写真があれば、ふるさと館へお申し込みください。実費を負担していただき写真をお譲りします。

積が六十リットル以上の水槽と過装置を各家庭で用意できるかたに限りです。なお六十リットルの水槽で飼育ができるのは、二十四匹が最も適していると思います。飼育方法など詳しい事についてお知りになりたい。たは、ふるさと館にてご説明いたしますのでお問い合わせください。

ふるさと館では、手作りの甘酒とミカンを用意してありますので、多くの皆さんがたのご来館をお待しております。

遊びもの（将棋、碁、カルタなど）は、何種類か用意しておりますが、変った遊び道具があれば、持ってお越しいただきたいと思っております。

ふるさと館でゲームを楽しみながら、お正月のひとときを皆さんといっしょに過ごしてみたいかたが、ぜひお越しください。



新田ベニヤの

石の地蔵さん

水難者各精霊供養

新田神社を背にして『石の地蔵さん』は建っている。

「十勝川の舟が、ひっくり返ったことがあったな」

「昭和六年六月に、牛尾さんとこで、息子さんとおばあさんが、丸木舟でひっくり返った。なんでも

も一六人乗りのとこ九人乗ったせいやそうな」

「それからもう三つ、四つあった。大工さんと息子さんが死んだという話もあった」

「昭和二十一年八月には、新田ベニヤの演芸部と演劇部の人たちの乗った舟は、定員オーバーでひっくり返ったそう」

「その時に、大坂さん死なはって、三十二才やった」

「いっしょに、高田さんと、市街の運転手さんと息子と、四人も死んだんや」

「あの人たちを、なんとかしてまつてやりたい」

と、錦町真隆寺、大和講の御詠歌と、仲間話から、近隣の賛成者、新田ベニヤの関係者の世話で『石の地蔵さん』は、昭和二十三年七月二十八日、当時、新田ベニヤの社員寮であった、十勝川温泉の旅館「観月」の裏手に安置され、観月の仲居さんたちの手によりまつられていた。

二十数年の歳月が流れ、黙々とこの地蔵さんをまつてきた仲居さんのひとりが、

「私の身に人がのり移ったみたいだ」



と、訴えられたことから、調べてみると、何かの影響で倒れて傷がついていた。

これを機会に、倒れて傷のついた地蔵さんを移そうと話がまとまり、昭和四十六年ごろ、新田ベニヤ関係者の手により現在の場所に移された。その後、だれいともなく「新田ベニヤの石の地蔵さん」と呼ばれるようになった。

なお、今でも毎年盆前に僧侶を呼び、関係者により供養は、続けられている。

取材協力 相沢 和子

取材協力 石川さん・吉田さん・総務課・大坂寿美子さん（以上新田関係）・牛尾コトミさん・村実さん

幕別 第44回
お祭り
路傍の神
開拓と信仰
南無延命地蔵